分野（3）
ぜん息発症予防・健康回復のための知識の体系化に関する調査研究

研　究　課　題　名：成人を対象とした気管支喘息患者に対する効果的な保健指導（患者教育）の実践に関する調査研究

調査研究代表者氏名：灰田美知子

評価コメント
・患者を教育して、EPとして他の患者の指導に当たるという活動はユニークな試みとして評価できる。 ・EP育成を視点に入れたアドヒアランスプログラムは新規性がある。 ・普及のために何か方策を考えているのであろうか。 ・EPはエパレクの中だけではなく、広く普及することによって意義が高まるわけであり、機構の事業にも貢献できると考えられる。そのためにも、EP試験をもう少し簡便にする必要があるのではなかろうか。 ・患者自身が積極的に学習できる環境を整え、ベテラン患者がリーダーとなって患者教育を推進するシステムが、アドヒアランス向上に効果的であるという興味深い報告である。問題は、このシステムをどのように他地域に拡大していくかであり、今後、各地域での展開を目指した研究に発展することを期待する。 ・EPの経験は患者だけでなく、医療関係者にもフィードバックすべきである。 ・EPを患者教育だけではなく、医師の卒前／卒後教育においても活用する方策も検討されたい。 ・本研究は研究代表者のみの多大な努力によって維持されているようにも感じられ、今後いかにこのシステムを広げてゆくかについての考察が必要であろう。また、発表については焦点を絞って簡潔にされることを希望する。また、論文化の早期の実現が望まれる。 ・熟練患者を教育してぜん息の患者教育に当たらせようという発想は非常に興味深く、医療費削減という点からみても有用と思われる。しかし、熟練患者自身にある程度の教育レベルが要求される。大都会では多くの患者からそのような患者を選んで実行可能かもしれないが、人口の少ない中小都市ではそのようなことはなかなか難しいのではなかろうか。普遍性という点では問題がある。